



2008年9月19日

各 位

会 社 名 アステラス製薬株式会社  
代 表 者 代表取締役社長 野木森 雅郁  
コード番号 4503  
(URL <http://www.astellas.com/jp>)  
東 証 ・ 大 証 ( 各 第 一 部 )  
決 算 期 3月  
問 合 せ 先 広報部長 河村 真  
Tel : (03) 3244-3201

## 米国マキシジェン社との臓器移植時の免疫抑制剤ならびに自己免疫疾患治療剤に関する 共同開発・商業化に関するライセンス契約締結について

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：野木森 雅郁、以下「アステラス製薬」）は、本日、米国の医薬品会社マキシジェン社（英名：Maxygen, Inc.、本社：カリフォルニア州レッドウッドシティ、CEO：Russell Howard）と、同社の臓器移植時の拒絶反応抑制剤ならびに自己免疫疾患治療剤開発プログラムである「Maxy-4」について、全世界での開発・商業化に関するライセンス契約を締結しましたので、お知らせします。

今回ライセンス契約を締結した「Maxy-4」は、臓器移植時の拒絶反応抑制、関節リウマチおよびその他の自己免疫疾患治療剤の開発を目的とした、次世代 CTLA4-Ig 蛋白を創製するマキシジェン社の前臨床段階開発プログラムです。

今回の契約により、マキシジェン社によって創出された開発候補化合物について、自己免疫疾患領域についてはマキシジェン社、アステラス製薬両社で共同開発を実施するとともに、マキシジェン社が北米におけるコ・プロモーション権を有します。一方で、臓器移植時の拒絶反応抑制剤については、アステラス製薬が全世界での独占的開発・販売権を保有することになります。生産については、疾患領域にかかわらず、マキシジェン社が供給する原薬を用いてアステラス製薬が最終製品を製造し、全世界で販売します。

その対価として、アステラス製薬は、マキシジェン社に対して契約締結時に 10 百万ドルの一時金を支払うとともに、種々の開発マイルストーン達成に伴い、総額 160 百万ドルを支払います。さらにアステラス製薬は、全世界売上に応じて漸増する二桁台のロイヤリティを支払うこととなります。なお、マキシジェン社がコ・プロモーション権を行使した場合は、ロイヤリティ支払の代わりに当該国での利益が両社で分配されます。

また、契約締結時一時金とは別に、アステラス製薬は当初の前臨床試験費用として 10 百万ドルを支

出します。その後は、北米ならびに欧州での自己免疫疾患適応症の開発費用については両社で負担し、それ以外の地域での自己免疫疾患適応症、ならびに全世界での臓器移植時の拒絶反応抑制剤としての開発費用はアステラス製薬が全額負担することになります。

アステラス製薬は、同社が創製・開発した免疫抑制剤「プログラフ」を世界 80 カ国以上で発売しており、既に移植領域においてグローバルに強固な基盤を有しています。アステラス製薬は今後も移植・免疫領域を最重点領域として取り組んでおり、今回のライセンス契約締結により、同領域におけるさらなる基盤強化に貢献するものと期待しています。

[ご参考：Maxy-4 について]

「CTLA4」は T 細胞上に発現し、抗原提示細胞上に存在する B7 受容体に結合する蛋白質です。Maxy-4 とは、マキシジェン社独自の分子改良技術を用い、B7 受容体への親和性、結合性をより一層高めた新種の「CTLA4-Ig (CTLA4 と抗体 Fc 鎖部位の融合蛋白)」を創製する開発プログラムです。生体には、体内に異物（抗原）が侵入した際、異物を排除して生体を防御する「免疫機能」が備わっています。抗原提示細胞とは、体内に異物（抗原）が侵入した際に、これを排除して生体を防御する「免疫」に関与する細胞の一つであり、異物の情報を免疫の中心的役割を担う T 細胞に伝達する役割を担っています。抗原情報を提示され活性化した T 細胞は、抗体の産生、サイトカイン産生など、様々な免疫作用を引き起こすことによって、体内から異物を排除します。T 細胞上には B7 と特異的に結合する CD28 という物質があり、両物質が結合することによって免疫反応が起こりますが、「CTLA4-Ig」は、B7 と CD28 との結合を阻害することで、免疫反応を抑制します。

以 上